

(一面より)

時代の到来などと凱歌したが、その内実は、全く逆方向にあった。即ち、米ノのうるわき協調は、それも今日の形態の資本主義的生産關係をも括りし、これらの生産關係およびその土台の上に立つ政治的上部構造を崩壊させ始めた過程の一コマにすぎなかったのである。

即ち、第一幕に特徴的な協調体制は、ソ連の官僚制国家独占資本主義が、現代先端技術産業の発達に適応しなくなつて、西側との競争にも敗れ、深刻な経済破綻に陥つたこと、そしてとりあえず、まだからうじて活力を保つる國産の生産を保障しておいた西側に対し敗北を認め、援助を講ずる方向に破局回避の道を求めたことが今までの歴史によれば、これが第二幕の主な側面だが、米帝がソ連帝の敗北宣言と手を打つ申し出を受け入れた背景には、他方の西側金融独占資本主義もまた、國際独立発達の政治条件を支えてきた米帝の超占領地を保証していた西側に対し、北米と手を打つ申し出を受け入れたのである。これが第三幕の主な側面である。

年頭アピール

事業認定失効

認めざす闘いを

東峰部落

石井武さん

事業認定の失効から早や一年を過ぎる今日、三里塚現地に於いて運輸省・公団は今まで取用法を子うつかせながら、何とか我々と話し合へさせし。そこで「期工事を作らう」と企らんでいます。

今「地域振興連絡協」に絡んで熱田派が云々とマスコミが騒いでおりましけど、我々は政府が事業認定の失効を公式にハッキリと認めなん以上、いわゆる「話し合い」のテーブルに就くなどといふことは全く考えておりません。三里塚闘争に就っては、多くの支援者さんと共に闘つてきました実力闘争を放棄し「話し合い」で物事を解決できるなどとはまったく思つておません。

この前提で、事業認定失効の目を迎えた今こそは、政府に強制収用を断念させるよろしく即ち

い、それが今年最大の闘争目標となりますが、どうか今年も田結しに纏めさせし。そこで「期工事を作らう」と企らんでいます。

事業認定失効を彼らに完全に認め

だらうと考えております。そして敵が強制収用するといふよりは暴挙に出た場合に、徹底的に今まで以上に、共に團結して闘つて闘つていましょ。

事業認定失効の日まで頑張るつもりですので、どうか今年も田結して闘つていましょ。

今年は、政府が「話し合い」の回答は買受権と事業認定失効とは無関係というもので、同盟に対する態度が何を変つてなしたことか示している。片や有無を言わぬのみ、片や「話し合い」のアメなど誰が納得できむか。

今年は、政府の「話し合い」の本質は説めるものではない。同盟と支援の力が相対的で、同盟と支援の力が相対的で物事を解決できるなどとはまったく思つておません。

今年は同盟の闘は人権無視の政策がばたして許されていいものかどうかを問つ闘ひだった。

この間、同盟と支援の力が相対的で弱くなる中で、世論的とも力民らしい闘いを強めて、何の話し合いもなき力づくでやつてきたのは政府なんだらうこと。一十五年前から反対のやり方方はもつとも

た大地を踏みつけした政府・公団のする「話し合い」など、乗ずる所な、唯だ真っ直ぐの我が道をゆく次第です。

闘ははよいよ本格化して来る事と信じて、不撓不屈の気概を旨に、勝利の確信をもつて闘いを続けて参る所存です。

一千四年の闘いの経験において、勝利の確信をもつて闘いを続けて参る所存です。

九九年はお互に余る知恵を絞つて共通の闘いの方向性をみつけた。それは「話し合い」路

つきました。それが「話し合い」路と思ふ人もなかなかない。労働根子を知つていくしかない。そ

の発言などだけでは反対同盟農民の見地からタクアン運動も色々な形となつて、革命的左翼の漫遊地に来て同盟と交流して闘ひの運動の大切な部分となる。集会

の發言などだけではなくことを示してはいる。片や有無を言わぬのみ、片や「話し合い」のアメなど訴えつつ、同盟が何故「話し合い」に応じなくては闘いつければならないのかを国民に理解してもらおうと企らんでいます。

今年は同盟を信頼しつつ同盟との関係を密にしていくことが支援の運動の大切な部分となる。集会

の發言などだけではなくことを示してはいる。片や有無を言わぬのみ、片や「話し合い」のアメなど訴えつつ、同盟が何故「話し合い」に応じなくては闘いつければならないのかを国民に理解してもらおうと企らんでいます。

今年は同盟を信頼しつつ同盟との関係を密にしていくことが支援の運動の大切な部分となる。集会の發言などだけではなくことを示してはいる。片や有無を言わぬのみ、片や「話し合い」のアメなど訴えつつ、同盟が何故「話し合い」に応じなくては闘いつければならないのかを国民に理解してもらおうと企らんでいます。

若く層の中に

東峰部落

堀越昭平さん

実力闘争から「話し合い」に移つていくかのようだ疑惑が色々持つたが、この「十五年間の反対同盟の闘はは政府の人権無視の政策がばたして許されていいものかどうかを問つ闘ひだった。

この間、同盟と支援の力が相対的で弱くなる中で、世論的とも力民らしい闘いを強めて、何の話し合いもなき力づくでやつてきたのは政府なんだらうこと。一十五年前から反対のやり方方はもつとも

た大地を踏みつけした政府・公団のする「話し合い」など、乗ずる所な、唯だ真っ直ぐの我が道をゆく次第です。

闘ははよいよ本格化して来る事と信じて、不撓不屈の気概を旨に、勝利の確信をもつて闘いを続けて参る所存です。

一千四年の闘いの経験において、勝利の確信をもつて闘いを続けて参る所存です。

九九年はお互に余る知恵を絞つて共通の闘いの方向性をみつけた。それは「話し合い」路

つきました。それが「話し合い」路と思ふ人もなかなかない。労働根子を知つていくしかない。そ

の発言などだけでは反対同盟農民の見地からタクアン運動も色々な形となつて、革命的左翼の漫遊地に来て同盟と交流して闘ひの運動の大切な部分となる。集会

の發言などだけではなくことを示してはいる。片や有無を言わぬのみ、片や「話し合い」のアメなど訴えつつ、同盟が何故「話し合い」に応じなくては闘いつければならないのかを国民に理解してもらおうと企らんでいます。

今年は同盟を信頼しつつ同盟との関係を密にしていくことが支援の運動の大切な部分となる。集会

の發言などだけではなく

佐藤一国連平和協力法案を潰すことができたのには、アジア人民からの批判という要素が大きかった。

小島——九十年代を感じさせる運動の新局面を切り拓くことができた。

から十五年戦争を通してやつてきた実際

の侵略と暴力、あるいは天皇を中心としていた日の丸の旗が方々に行いくような問題については、百年——百年かわらぬいじやないのか。天皇がどう謝まるが、天皇制が無くなるが、永久にその事を負っていく位置にある。そういう位のところを考えて、アジア千万人の虚殺を重視していかねばならない。今回そういう批判が噴出してきた。それと正直言つて憲法九条というのを結構通用で

きだ、どうして阻止できたのではなくといつてあります。

いか。

「即位の礼」のあと行なわれたレセプションみたいなのに「連合」の議長が

出ながつた、出ながつたといふ。か

つては総評議長が園遊会に出たけれども

そういう情況にもなつてきましたとい

う。運動として大きな前進したので

はないかな、という感じが

ますね。

結局労働運動として基本的には弱いのは

りやつてはいけないんじやないかと思

うんです。

天皇制問題について団体交渉を意外とや

りやつてはいけないんじやないかと思

うんです。

ただ、どうして阻止できなかつたか

うんですか。

さあ、どうして

止めたか

うんですか。

(五面より)

からこの指とされとはならないのです。ただ、安泰という問題が日常生活の中に様々な形をかえて、しかも我々の生活を支配する非常に大きな問題として迫ってきていた。それを切開して見せればやはり運動形態としては色々あると思うだけ、あつこちで面白いところができると思うのです。

小田原 労働運動について言つてね、僕らもすうと反天皇制運動で労働戦線

達が各領域の運動の中に急速だよね。

僕はそういう意味では、労働組合の再建

とか、労働組合を中心とした労働運動の

再建という課題のも、九十年代の前半

運動で全国各地で小さな町でも、労働者

が一個の主体として個人として闘いを組

織していくことがあった訳でしょ。

ケ崎という地域だったから、反天皇制

運動で全国各地で小さな町でも、労働者

が弱いということで働きかけてき。そ

れは争団運なんかも頑張っておれば

したのだけれど、総体としては全然だ

だよね。新左翼党派の影響力のある組合

風に、ベクトルの向きとしてはさうな

くだけた。本当に急ぎだよね。

僕はそこ月の暴動しても、部隊

はよくわかるのですが、ただ暴動をど

う絶続していくのかどうかという問題がある

といふところです。日々の活動とか暴動の闘

いができないと思つてますよ。

小島 小田原さんのおっしゃる意味

で、それが十月の暴動としても、部隊

はよくわかるのですが、ただ暴動をど

う絶続していくのかどうかという問題がある

といふところです。日々の活動とか暴動の闘

いができないと思つてますよ。

僕はそこ月の暴動としても、部隊

はよくわかるのですが、ただ暴動をど

う絶続していくのかどうかという問題がある

